

認知症に関する活動計画（概要）

茨城県作業療法士会では、以下の活動計画を中心に活動を進めております。

①認知症の理解を深める活動

- ・VR認知症体験会
- ・同体験会の開催を広める為のシステム考案

②他団体・行政等の認知症関連事業への支援、協力



認知症の理解を深める活動

主たるツールとして士会独自のVR・AR認知症体験ソフトと、協会作成のDVD「二本の傘」の上映とを合わせて、認知症を知り・考える時間をマネジメントしております。体験ソフトはレビー小体型認知症の「幻視体験」およびアルツハイマー型認知症の当事者の体験を基にした「帰宅路ミス体験」を開催しております。

2017年から依頼元の各事業とコラボレーションさせて頂き、継続的に体験会を開催してきました。昨年度は、26件の依頼に応じております。依頼元は高齢者サロンなど地域団体、医療介護福祉専門職等の教育機関、道の駅等で開催されるフェスティバル内（多企業の一員としてブースを設置）など、多世代に渡り認知症の理解促進に取り組んでおります。



本活動は、市町村を始めとし、社会福祉協議会や地域包括支援センター、認知症地域支援推進員など連携の幅が広がってきました。昨今問われる「共生社会」および「認知症共生社会」の構築を目指す中で、作業療法士が認知症とともに暮らす方法を考えるパートナーになり得る事を、体験会を通して強く広く発信して参ります。

その為に多業種との連携を続け、医療介護福祉に拘らず幅広いネットワークの構築を実現出来る様、認知症支援推進委員会として邁進いたします。

認知症の人と家族の会との連携事業

昨年度は当事者および家族の交流会に参加し、作業療法士と共に考える「暮らし方」をJAOT発行の「生活行為を続けるためのヒント集」を活用しながらレクチャーおよび意見交換の時間を設定して頂きました。

認知症の人と家族の会、茨城支部は代表が代替わりした事もあり、継続的な協働を行いお互いに活動を支え合える関係作りを続けて参ります。